

第5回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議（会議録）

1 開催日時

平成28年3月17日（木） 午後2時00分～午後3時10分

2 会場

花巻市役所本庁舎3階 委員会室

3 出席者

花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員12名：中村良則座長、似内英悦委員、小原宏委員、岩渕満智子委員、宮澤啓祐委員（代理出席）、藤沼弘文委員、齋藤俊明委員、小原和雄委員、佐々木安浩委員、漆沢俊明委員（代理出席）、村上弘明委員、菊池文彦委員

市側：八重樫総合政策部長

事務局：秘書政策課企画調整係（伊藤課長、似内課長補佐、寺林企画調整係長、小原上席主任、佐藤主任）

4 会議内容

【1 開会】

【2 挨拶】

○中村座長より挨拶。

【3 説明・意見交換】

○説明

（伊藤課長）配布資料により、花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版案について説明

○意見交換

（藤沼弘文委員）よくできた計画だが、本当に計画どおりやっていけるかが大事になる。山沿いの地域では林野が荒れ、荒れ果てた空き家も多い中、そういうところに定住者を呼び込もうとしても難しい。農業生産について、農地は一年のうち半分近くの期間が雪に埋もれているので、ハウスに頼らなければならない。ハウスを使用して、どう生産性を高めていくが重要である。自然の豊かなところで、パソコンを利用して物を売ったり、管理したりする仕事をしたい人はいっぱいいるが、林業をやりたい人はなかなかいない。林業が収入になることがわかれば、やりたい人は出てくると思う。大変な仕事だけれども面白い仕事はたくさんある。そのような仕事にも目を向けてもらえるように様々な工夫をするべ

きと考える。

⇒（事務局） 改訂版に、若手林業就業者の雇用拡大につながるような支援等を進めていくための施策の方向性や事業項目を追加しており、平成28年度予算に盛り込んでいる。今後は農林部や森林組合で事業実施の要綱を作り、実施していくことになる。その後の進行管理状況をみなさんに評価していただくことになる。

（漆沢俊明委員代理伊藤和郎氏） 4点ほど伺いたい。一点目は道の駅調査整備事業について、平成28年度予算に540万円計上しているが、どこか視野に入れている候補地はあるのか。二点目は団体旅行貸切バスツアー支援事業について、1台あたり3万円の補助を考えているようだが、新幹線で新花巻まで来てもらい、地元のバス会社を利用した場合に補助されるのか、他県からバスツアーで来た場合も対象になるのかなど、現時点でわかる範囲でいいので説明願いたい。3点目は、花巻空港でのLCC運行への実現性はあるのかを伺いたい。4点目は、ビジネスグランプリについて、当初は、ビジネスグランプリを開催するとなっていたが、改訂版ではビジネスアイデアに名称が変更されているが、変更の理由は事業の整理ということか。また、花巻信用金庫では、「花巻夢・企業家塾」をやっているが、例えばビジネスグランプリを開催する際、花巻市と共催とすることは可能か伺いたい。

⇒（事務局） 道の駅については笹間・太田地域への設置要望を地元の方々からいただいている。盛岡・和賀線で湯口から笹間あたりにかけてバイパスが開通したことに伴い、バイパス沿いに設置の要望があった。道路施設としての道の駅はドライバーの休憩施設がメインであり、大型バスや観光バスも通ることから、市としても設置の必要性はあると考えている。情報発信施設、トイレ、駐車場とコンビニや産直などを合わせた複合施設として設置できないか検討するために予算措置したもの。場所については未定である。バイパス路線沿いのどこかとなると思うが、そのあたりも含めて今後検討することになる。団体の貸切バスツアーについては、500km以上のツアーで花巻に入って来るバスツアーを想定していると聞いている。LCCの誘致について、県に要請をしているが、県は現在就航中のJALとの関係もあり、誘致は難しいと考えているようだ。仙台空港はLCCを熱心に誘致していると聞いており、花巻も同様に誘致していけば、仙台から客を呼び込むことができると考えられるが、県と一緒に活動することが難しい状況のため、実現性は不透明である。ビジネスアイデアについては、初版では、「起業・新事業展開推進事業」で花巻ビジネスグランプリを開催すると記載していたが、平成28年度の予算編成において事業の整理を行い、「地域イノベーション戦略事業」となった。その中で、ビジネスグランプリという名称ではなく、ビジネスアイデアを募集して創業を支援することとした。名称は変わったが、内容や精神に変更はない。ビジネスアイデアについては、詳細が決まっていない状況のため、夢企業家塾と共催できるかは現時点で明言できないが、花巻信用金庫さんや岩手銀行さんとは協定を締結しているので、例えば、コンテストの審査の部分で、金融機関の目としてご協力をいただくことは考えられるのではないかと。

(藤沼弘文委員) FDAは新しい機体を1機購入したが、この機体の拠点を探している。花巻空港をFDAのサブ拠点にしてもらいたいようなことができれば、花巻空港から一番機が飛ぶようになり、黙っていても人が来るようになると思う。

(佐々木安浩委員) 花巻に空港があるのは大きな強みである。運んでいるのは人だけでなく物も運んでいる。市内の業者が製造した物を大阪便で飛ばして関西へ届けていたり、季節によっては花を運んだりしている。物流の手段の一つとして飛行機は市内の事業者にとってはプラス要素になる。便数が多くなれば物流にとってもプラスになる。

(村上弘明委員) 数値目標について2点伺いたい。1点目は、改訂版33ページにある社会増減数について、平成27年にマイナス216人だったものが、目標年である平成31年には284人に転じ、トータルで考えると500人増となるが、実際には社会増減をどう比較するかとなると比較対象が決まっておらず、微妙な数字になってしまうと考えられる。また、59ページに「防災・減災対策について安全・安心と思う市民の割合」という指標があるが、53.7%が現在の値で、これを平成31年には66%に上げたいとあるが、防災・減災について意識が高い人ほど、安全・安心と言わないのではないか。例えば、安心・安全と思う市民の割合が目標年で20%くらいになったら、相当真剣に防災・減災について考えているとみることもできるのではないか。指標の中には、一律に数字で表せられないものも含まれている。平成31年にこの戦略は何を持って成功、失敗と判断するかとなった時、例えば、全体の指標の8割が達成したから成功とするのか、50%しか達成しなかったから失敗とするのか、ゴールをどのように設定するのか明確にしていないと非常に判断しにくいと思われる。計画自体に問題はないが、指標をどうとらえるかという共通認識を持つ必要があると思われる。

⇒(事務局) 防災のアンケートについては、まちづくり市民アンケートで調査しているもので、1,000人くらいの方々にアンケートを取っている。その中では、毎年同じ方をお願いしている部分と、新しい人をお願いしている部分があるが、同じ方に答えていただいている部分については、定点で把握できる状況である。固定された方に経年で実施しているアンケートについては、平成27年度から31年度にかけてどうなっていくかは、把握しやすいと考えている。この指標がどの程度達成されたら合格点となるかについては、非常に難しいところだが、総合戦略と対して作成した人口ビジョンで花巻の人口が将来どうなるかという見込みがある中で、それに対する取り組みの結果、何人上乗せする、ということになっているため、最終的には人口推計が食い止められたということが及第点ということになる。

(中村良則座長) 社会増減は流出と流入の要因があるが、流入を増やすことが政策目標であるべきであり、そのために雇用機会を確保する、移住を呼びかけるなどしている。社

会増減数の出入りで500人増やすということもわかるが、目標を設定するのであれば、流入数を増やす、例えば流入数を2,000人から2,500人に増やすなどの設定の仕方もありうると思われる。

⇒（事務局） 花巻市に限らず、若い人たちの流出が深刻な状況である。今日は花北青雲高校の小原校長先生にも来ていただいているが、花北青雲高校の生徒は地元就職する方が多いが、他の高校の生徒も含めると、都会の大学に行って帰ってこない方々も多い。その方々がまた戻ってくれば流入となり、わざわざ東京に行かなくても地元で就職できるとなれば、流出の防止につながる。流入はもちろんのこと、流出防止にも努めたい。

（岩渕満智子委員） 自分たちの住んでいるところはこうありたい、こうあってほしいと思えるようになるには、地域が抱える現状の課題を認識することが必要。それを一般市民の方々はどう捉えているのか、わかっているのかなと思う。こういう場に関わっているからこそ深刻な事態だとわかるが、市民の方々にもっと現状を教えていかなければならないと思う。コミュニティ会議でも様々な研修するが、その場限りになってしまっている。市民の方々の自主性、主体性を向上させるためのモデル地区があればいいのではないかと思う。

（似内英悦委員） 改訂版の市民への周知する手段は考えているか。また、ダイジェスト版のようなものを紙媒体で出す予定はあるか。

⇒（事務局） 広報等でお知らせしていきたいと考えている。また、時期をみて、市民の方々へ説明する機会を設けることも考えている。紙媒体でダイジェスト版を出すことは今のところ考えていない。

【閉会】

（似内課長補佐） （委員の意見を踏まえ、3月末を目途に花巻市まち・ひと・しごと創生推進本部において、花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂版が決定となることを説明し、閉会）